

# 世界中から人が集い 活気あふれるBAZAARに!!



日華化学(株) (本社・福井市、江守康昌代表取締役社長) は昨年11月1日、新たな研究開発拠点となる「NICCA イノベーションセンター (NIC)」をオープンした。テーマは「BAZAAR (市場)」。これまでの研究所という概念を脱ぎ捨て、全国、世界中から多くの人が集まり、活気にあふれた場所から新しい価値を生み出していく。既に、クリーニング、リネンサプライ業のユーザーなど、同社が幅広く事業展開する様々な産業の関係者が連日のように訪れている。NICを訪れ、江守社長に同施設への思いを聞いた。

日華化学は、1941 (昭和16) 年に繊維油剤とアミノ酸の製造で創立。福井の地場産業である繊維加工業とともに成長を遂げ、繊維用染色助剤、撥水剤、難燃剤、クリーニング用薬剤、脱墨剤、美容室専売頭髮化粧品、プロジェクター用透過型スクリーンフィルムなど、幅広い様々な分野に向けた商品開発を行って事業を拡大。また、海外にも早くから進出を図り、現在アジアを中心とした8つの国と地域に12拠点を持つ。2016年東証一部上場。



江守康昌社長

クリーニング、リネンサプライ向けの事業は60年前から。繊維を知り尽くした会社だからできる製品開発を行い、「環境を考慮した人と暮らしに優しい薬剤」をコンセプトに、ホームクリーニング分野とリネンサプライ分野において製品を提供し、ユーザーの「洗い」に対す





るこだわりに、柔軟に対応できる体制を整えている。

## オープン・イノベーションの場

江守社長は「創業の地である福井は、繊維加工の産業が発展した地域。特に合成繊維の製造が盛んで、当社は染料とともに重要な、界面活性剤を利用した繊維加工薬剤（洗浄剤、均染剤、機能加工剤など）に集中し、開発に取り組んできた。おかげさまでBtoBの分野では国内トップシェア、アジアでもトップに近づいているが、ここに至るまでもお客様にいろいろと教えていただきながら研究開発がなされてきた。いわゆる“オープン・イノベーション”が我々のDNA。新たな研究所にも、徹底的にお客様にお越しいただき、さらにオープン・イノベーションを進めたいと考えた」と、NICへの思いを語る。

そのオープン・イノベーションの実現に向けた設計には、次のようなイメージがあったという。

「研究者というのは、ややもすると蛸壺にこもってしまいが、そうではなくて、いろんな人と語り合い、知恵を借りながら、一緒に新しいものを作り上げ、さらに評

①オープンスクエア。日華の技術を紹介しながら新しい出会いとイノベーションを推進



価もしてもらおうような、チームワークでワクワクしながら仕事をしようということで、設計の方（建築家・小堀哲夫氏）には、宮殿のような立派な建物ではなく、皆がリラックスして、カジュアルでざっくばらんな賑わいのある空間がいい」と伝えたという。

そのイメージから、江守社長が掲げたテーマは「BAZAAR（市場）」。トルコ・イスタンブールの市場（グラド・バザール）のように、エネルギーに満ちあふれた場をつくろう。そして、楽しく働けるようにするには、どのようなデザインがいいのか。3年に及んだワークショップには、多くの若手社員とともに経営者、研究者、設計者がディスカッションを重ねながら形にしていったという。

## 吹き抜けオフィス、ガラス張りの実験室

4階建てのNICは、開放的な吹き抜けで自然光を多く採り入れた設計。壁には地下水を通して熱交換で室内温度を調整するなど、環境に配慮した省エネ設計により、国土交通省のサステナブル建築等先導事業の採択を受けている。

1階はオープンスペースで、5つの広場（スクエア）がバザールのように広がり、自由な雰囲気と一緒に開発する場を設けている。

### ①オープンスクエア

日華化学の技術を、9つのキューブ形のショーケースとタブレットで紹介。



▲開放的なオフィス空間。壁のない自由な交流が、新たな発想を生む



②ヘアサイエンススクエア。頭髪化粧品の商品開発や情報交流の場



▲実験室。様々な試験や評価の設備を用い、研究開発が進められている

キューブは福井県産杉を日華化学のウレタン技術でコーティングしている。

#### ②ヘアサイエンススクエア

主に頭髪化粧品の商品開発にかかせない情報交流の場として誕生した、毛髪科学と共育を核とするコミュニケーションスペース。セミナーや技術講習会も開催する。

#### ③コラボレーションスクエア

社内外の研究者やマーケッター、クリエイターなど多様な人たちが技術や意見を交換する場。

#### ④ガーデンスクエア

カフェテリアを兼ねた、多目的にワイワイガヤガヤと話し合うスペース。ホールでは、セミナーや講演会、学会やシンポジウムなどの開催も企画。

#### ⑤Tスクエア（トライアルスクエア）

試作室、特別実験室、精密分析室の3つの研究室で構成されたスクエア。これから日華化学が取り組む新しいテーマを扱い、お客様とのコラボレーションで試作品を作り、評価し、議論し、改良し、完成させる。

2階は毛髪科学研究所、3階は界面科学研究所。オープン過ぎるほどのオフィスだが、集中したい時には半個室の籠り部屋も多数ある。また、フリーアドレスのデスクも多く、好きなスペースで仕事ができるようになっている。その一角にある大きな図書スペースには、社員が



④ガーデンスクエア。講演会などに利用できる

仲間に薦める本や、化学の専門誌、ファッション雑誌などが並ぶ。

ラボは撮影不可だが、ガラス張りの実験室が多く、研究・実験の様子を見ることが出来る。3階にはカフェスペースがあり、2～3階の研究者たちが交流できる場になっている。違う分野の研究者が意見を交わすことで新しい発見や解決の糸口が生まれる。

クリーニングやリネンサプライ関連の研究部門は隣接するアネックス棟にあり、自動洗濯脱水機（10kg）も設置されており、実機での検証を繰り返し、開発に取り組んでいる。そして4階は、プレゼンテーションルームと応接室など。

### 信頼のイノベーション・カンパニーへ

江守社長は、「建物で会社が変わるわけではないが、一つのきっかけにはなるはず。社員に、そしてお客様にいろいろな発信をするメッセージ性のあるものができた」と語る。

同社は、長期ビジョン「INNOVATION25」として、2025年に向けて「お客様にもっとも信頼されるイノベーション・カンパニー」を目指している。

「困ったことがあれば、ちょっと行って相談してみようと思っていただけるような、お客様に近い存在であり続けたい。ここを、世界中からおもしろい情報やプロトタイプが集まってくる市場とし、日華化学のイノベーションセンターに行くと何かがある、何かに触発される、技術やアイデアが沸き起こると思っていただけるようにしたい。リネンサプライ業の皆様も、ぜひ福井にお越しいただいて、一緒にイノベーションを創発していければと思います」（江守社長）。

同社では、NICの見学及び研修会などの企画も広く受け付けている。詳しくは、日華化学各支店まで。